



森と海の自然科

ロマン漂う 山の辺の道（北コース） 散策の案内

2023.4.25 (Aグループ 秦)

山の辺の道は三輪山のふもとから春日山のふもとまで奈良盆地の東の山裾を縫うように続く古道で、日本最古の道の一つといわれ、沿道は寺院や古墳などの歴史スポット満載です。今回は山の辺の道中間点・天理から北コースをたどります。桜井～天理間の南コースにくらべて知名度も低く、訪れる人も少ないのですが、それだけにのどかな景観と俗化されていない魅力的な史跡が残されているとのこと。

天理からの北コースは奈良公園までの魅力いっぱい古道ですが、白川ダムの方で車が多いうえに歩道のない道路の続くところがあり、集団歩行は危険を伴いますので昼食後は山の辺の道はずれ西方へのコースをとります。

・日時 2023年 5月 11日 (木)

・集合 10時30分 JR万葉まほろば線(桜井線)・近鉄天理線 [天理駅] 東口 セブンイレブン前

・持ち物 弁当 水筒 敷き物 雨具 双眼鏡等

・行程

10:30 天理駅東出口 → 石上神宮 → 布留の高橋 (布留川) → 豊日神社 → ウワナリ・石上大塚古墳 → 本通り商店街・WC

13:00 白川ダム (昼食) → 赤土山古墳 → 和邇下神社 → 櫛本(いちのもと) バス停 → JR 櫛本駅
WC 高瀬川に沿って歩く もう歩けない人はバスに乗って奈良駅へ行けます

JR 櫛本駅 14:55 発 →  → 京終(きょうばて) 駅 15:01 着 …… → 近鉄奈良駅 (15:30 頃 解散)
奈良町を歩く

時刻表	櫛本バス停	JR 奈良駅行	13:56	14:56	15:56	近鉄奈良駅まで約 30 分・470 円
	JR 櫛本駅	奈良行	13:55	14:55	15:25 15:58	京終駅まで 6 分・190 円

《歩行約 10km》

*雨天の予報で中止にする場合は前日 17 時ごろに連絡します



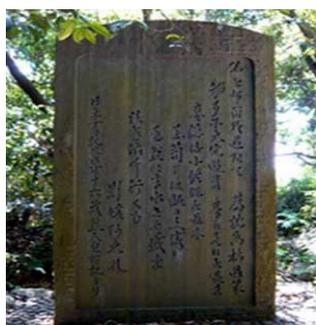
石上神宮



竹林の道



白川ダム



影媛哀れの石碑・和邇下神社の参道

影媛伝説 山の辺の道にまつわる悲恋物語を「日本書紀」は伝えます。時は5世紀末。石上あたりの豪族・物部氏の娘だった影媛が、時の権力者によって殺された恋人の死を嘆き、ひとり泣きながら山の辺の道を北へ駆けていったといわれています。



石上神宮 (いそのかみじんぐう)

石上神宮は『古事記』や『日本書紀』にも登場する日本最古の神社の一社です。祭神として祀るのは人ではなく神剣・布都御魂(ふつのみたま)を祀っています。また古代豪族で有名な物部氏の総氏神であり大和朝廷期の武器庫でありました。百濟国王から送られた七支刀(しちしとう)を所有していることでも有名です。

布留の高橋 (ふるのたかはし)

全国の高橋姓のルーツと言われる橋です。もともとあった「高橋」の正確な場所は不明で、この橋は近年再建されたものですが、「高橋」の歴史は非常に古く、万葉集にも「石上 布留の高橋 高高に 妹が待つらむ 夜そ更けにける」と詠われています。布留川は6月上旬～中旬にゲンジボタルが舞うことでも知られています。

(奈良観光.jpより)

豊日神社 (とよひじんじゃ)

「山辺郡誌」によると、当初は火雷神(ほのいかづちのかみ)を祀っていたが、火雷(からい)天神と称して菅原道真が祭神となったと思われる。豊日は豊火で、「高橋氏文」に豊日連が忌火(いみび)を鑽(き)って御食をつかさどったことがみえるので本拠地にその祖神である火雷神を祀ったものとする説もある。(平凡社「日本歴史地名大系」より)

豆知識 **氏文(うじぶみ)**⇒古代の氏がその起源や先祖代々の功績などを記した文書。「高橋氏文」の類
火を鑽(き)る⇒火を打つ→火打石で火をおこすこと

石上大塚古墳 (いそのかみおおつかこふん)

全長107メートルの前方後円墳で、古墳の周囲には周濠をめぐらしています。巨石を用いた全長9～10メートル程の横穴式石室が築かれていたものと推測されていますが、現在は破壊されています。6世紀前半に築造された古墳時代後期の古墳です。

(天理市ホームページより)

白川ダム

白川ダムは白川溜池を改築して造られたもので、それまでの農業用貯水に加え、新たに洪水調節機能が加えられました。平成7年工事完了し、堤の高さが4.5mかさ上げされ、農業用貯水量とは別に治水用の50万立方メートルが蓄えられるようになり、天井川となっている下流の檜川が氾濫するのを防ぐことができました。

(天理市観光協会HPより)

高瀬川 (一級河川)

天理市福角町の桜峠付近に発し西流、奈良市米谷町と天理市石上町の境に深い谷を刻み、このあと国道25号沿いに流れて天理市樺本町を貫流、大和郡山市伊豆七条町で佐保川左岸に注いでいます。

赤土山古墳 (あかつちやまこふん) 《国指定史跡》

史跡赤土山古墳は古墳時代前期後半の前方後円墳で後円部東側に造り出しがつく特徴的な形状の古墳です。

天理市による発掘調査で多量の埴輪が出土しました。築造は4世紀後半と推定され、わに氏に関係する有力者の墓と思われます。現地では墳丘や「家形埴輪祭祀遺構」を見学することができます。(天理市ホームページより)

和邇下神社 (わにしたじんじゃ)

主祭神は素戔鳴尊・大己貴命・櫛稲田姫命で創建年は不詳です。

ここから2.5kmほど西に下ったところに同じ名称の神社があり、当社を「上治道宮」と呼び、西の方を「下治道宮」と呼んでいる。この両社を以って「和爾下神社二座」に比定されています。(spiritualjapan.netより)

鎮座地の樺本町あたりは、古代氏族「和邇(わに)氏」の拠点。神社の東には東大寺古墳をはじめ古墳が点在していて、それらは和爾氏に関連する古墳と見られています。当神社は前方後円墳の後円部に鎮座しています。